# 小学校コースを育てていただいた
# 奥澤信行先生に感謝

白鷗大学教育学部教授

工　藤　哲　夫

奥澤信行先生は、令和６年３月31日をもって、白鷗大学を定年退職されることとなった。先生は昭和54年４月足利学園高等学校商業科特別講師として創立前の白鷗大学に関連する高校に着任され、以降、昭和56年４月足利学園高等学校教諭、昭和62年４月白鷗女子短期大学兼任講師（地理学担当）、平成９年４月白鷗大学女子短期大学部経営科講師および白鷗大学兼任講師、平成10年４月白鷗大学女子短期大学部経営科助教授、平成12年４月白鷗大学女子短期大学部経営科教授、平成16年４月白鷗大学発達科学部助教授、平成18年４月白鷗大学発達科学部教授として、今日まで45年間白鷗大学及び系列の学校でご活躍された。

高等学校では、地理をご専門とし、昭和56年には足利学園高等学校教諭として音楽科第一期生を担任され、東京藝術大学２名、国立音楽大学３名、武蔵野音楽大学７名の現役合格を指導された。また、平成２年には特進コース第一期生の担任として東京大学、東京工業大学、東京外国語大学の現役合格を指導された。

大学では、平成10年４月からの白鷗大学女子短期大学部経営科助教授の時には、都市システム論・経済地理学・学級経営論などを担当され、平成12年４月からの白鷗大学女子短期大学部経営科教授の時は、都市システム論・経済地理・道徳教育特別活動の研究・学校生活指導法などを担当した。平成18年４月からは白鷗大学発達科学部教授、平成19年４月からは白鷗大学教育学部教授として、ご専門の地理学とともに教員養成の科目である社会科教育法等を担当され、白鷗大学の教員採用試験合格者が200名を超える成果をもたらす大きな力となっている。

大学での委員会組織においては、令和５年度は小学校実習委員会委員長、総合研究所地域連携センター長、地域連携センター運営委員会教育連携部会長等要職に付かれ、特に数多くの教育実習を行う小学校教育コースの教育実習全体を取りまとめていただいた。なお、大学全体の教務委員長も長年歴任され、小学校コース長も長年歴任されている。また、白鷗大学に籍を置きながら、白鷗大学足利高等学校等において、教頭、学事顧問、校長代理などの要職も歴任されている。

先生は、栃木県足利市のご出身で、立教大学文学部史学科地理学専攻を卒業され、日本大学大学院理工学研究科地理学専攻博士前期課程を修了されている。卒業論文の題目は「商圏調査による両毛地域存立の証明」、修士論文の題目は「群馬県太田市における大型店出店による商圏の変容」である。また学術論文として「両毛地域における東武鉄道の列車運行体系の変容」、「小学校社会科地理的分野における地域学習の意義―栃木市立栃木第四小学校の校外学習を事例として―」等があり、地理学の専門領域、および社会科教育の論文等数多く、意欲的に研究をされている。

奥澤ゼミナールであるが、最終年度までで198名が在籍し、そのうち162名が教員となり、栃木県等の中堅教員として活躍している。多くのゼミ生が教員採用試験に合格し、教育界に貢献しているのは、上岡一嘉先生から受け継いだ「出来そうになくても、自分に嘘をついて、出来るというプレッシャーを懸ける」という精神で、「もしかしたらなんとかなるかもしれない」と教員が思うことが必要で、その結果、学生にもその気持ちが伝わり、学生のモチベーションを上げることができたからとのことである。基本的に試験というものは、実力（学力）は６割、２割が情報、１割は運、残りの１割がモチベーション（受かるぞーという精神力）とのことである。また、学生は教員をよく見ており、教員が手抜きをしているとか、学生のことをよく考えてくれているとか分かっているので、学生の期待に応えてあげなければいけないというお気持ちがあった。

また、奥澤ゼミナールでは、フィールドワークを研究の中心に据えてお

り、まず基本として、大行寺キャンパスから小山駅まで徒歩にて20分以内でたどり着く健脚が必要であるとのことである。フィールドワークでは、電車に乗って遠出するということがあるが、奥澤先生のお考えに、過保護は徹底しなければいけない、中途半端はいけないというものがある。具体的には、ゼミで旅行に行くのには、奥澤先生自身が一通りゼミ生全員の電車の時間を調べ、乗り遅れた場合はこっちの電車を使うというところまで調べるというものである。これは足利裁縫女学校から受け継がれてきた。学生ファーストの姿勢であり、ゼミ生の論文指導でも最後まで徹底的に指導し、就職に関しても充分に最新の情報を提供して、学生の精神的支えとなることが重要とのお考えである。このことによって、白鷗大学の「PLUS ULTRA」・「ALL HAKUOH」の精神が体現できるというお考えであった。

学生ファーストの姿勢で学生のことを手抜きすることなく考え、学生の能力を最大限引き出すことを心がけてきた先生の姿勢に常に感銘を受けてまいりました。

末筆ではありますが、奥澤信行先生、これからも、ますますお若く、ご壮健でお過ごしください。先生のご多幸をお祈り申し上げます。ありがとうございました。